

# リベリア

## エボラ最前線に立つ医師

### 祈りよ力に

【33】

看護師からの電話が鳴った9月3日の朝6時半、リベリア人医師ジェリー・ブラウンはまだベッドの中だった。出産間近の妊婦が搬送されました。エボラ感染者のようです。ブラウンは迷いはなかった。「防護員の準備をしなさい」。病院に駆けつけると助産婦3人が不安げに待っていた。妊婦は首都モンロビアに住む22歳。夫はエボラ出血熱で8月に死亡。本人も感染の兆候があった。「いつもと同じ」とをわかれたい。速いはずは防護服を着るもどけた。3人を励まし大急ぎで防護服とゴーグル、マスクを身につけ、病院の外に止めてあった救急車に飛び乗った。他の病院では、感染者の出産は手に負えない」と断られ続けた。だがため、妊婦はすでに破水していたが、30分もしないうちに女の子が元気な産声を上げた。救急車内で歓声が上がった。

#### 看護師を説得

エボラ出血熱の感染拡大で最多の死者を出しているリベリア。ブラウンは首都でも数少ないエボラ治療センターを備えた病院の院長としてエボラとの闘いの最前線に立ち、指揮を執る。

2人を乗せた救急車が病院に到着したのは午後10時ごろ。だが、25人の看護師全員が仕事を拒否し、既に国境地帯まで医療従事者が

感染し死亡していたからだ。「われわれがやるしかないんだ」。説得するブラウンにようやく2人の看護師が応じた。患者をチャペルに運び込んだとき、既に前々時を過ぎていた。

感染はその後、予想を越える速さで広がった。チャペルでは足りず、建設中だった別棟が治療センターとなった。ベッドは80近く増設したが、それもちままちま埋ま

った。最初には抱いたのは私だ。45歳のブラウンは笑みを浮かべ、誇らしげに言う。

具は手袋ぐらいだった。6月初旬。保健相から直接電話が入った。「あの隔離病棟はまだあるか。感染の可能性が高い2人が首都で見つかったという。ブラウンは即座に受け入れを承諾した。

既に関境地帯まで医療従事者が感染し死亡していたからだ。「われわれがやるしかないんだ」。説得するブラウンにようやく2人の看護師が応じた。患者をチャペルに運び込んだとき、既に前々時を過ぎていた。

感染はその後、予想を越える速さで広がった。チャペルでは足りず、建設中だった別棟が治療センターとなった。ベッドは80近く増設したが、それもちままちま埋ま



モンロビアのエボラ治療センターで、エボラに感染した母親から生まれた女兒を見つめる医師のジェリー・ブラウン(右)ら。女兒は感染しておらず健康だった。母親は回復し9月中旬、母子ともに退院した。感染者の出産は医療従事者にも危険が伴う

モンロビア・オメガ地区で、エボラ出血熱で死亡したとみられる女性の遺体が民家から運び出される様子を遠巻きに見守る住民(いずれも撮影・中野智明、共同)

## 闇の中に希望の光ともす



エボラに由来する死は、今まで見たどの病よりも速かった。午前中に会話ができた患者が午後には死ぬ。トイレで息絶えた患者もいた。「救われる命を見たくて就いた仕事だったのに。救いたが治療薬がない。どついたらいいのかわれわれの仕事は、あなたの愛とともにあります。そう神に祈るしかなかった。

ふと、医師の間ではほほ笑わされる言葉を思い出した。「治療法は模索して創出しろ」

まず、治療現場に立ちまわる意思を持つスタッフを確保した。そして高い抗酸化作用があるといわれるサリメントであるセレニウムと、エイズウイルス(日エイ)感染者に処方する薬の一部を与えてみた。脱水症状に陥るよう大量の水を点滴で投与。出血が始まった患者には、キリスト教会のネットワークで募った献血で輸血した。

次第に症状が改善する患者が増えた。8月の1カ月間で43人が回復。子供の方が助かる確率が高いことも分かった。

#### 「プリンセス」

リベリアでは約80人の医療従事者がエボラ感染で死亡し、看護師

らの抗議で首都の大半の病院は一般病棟を含めて閉鎖する事態をたてている。

米国の団体などから防護員が送られて来たが、それも現場が必要とする数になかなか追いつかない。ブラウンの治療で回復、退院した42歳の医師は「もうエボラはこりた。医師を諦める」と治療現場を去った。

だがブラウンは、エボラ治療の最前線に立ち続けた。毎日替る防護服の下は汗でぐっしょり。慎重に感染を避けるため防護服は着るのも脱ぐのも30分はかかる。暑さの中で極度の緊張を強いられ続ける治療現場の疲労は高まる一方だ。

ブラウンは、政府や国際機関などとの協議もなしに、日に2度は病棟を回る。朝晩、自分の体温を測り感染の兆候がないか確かめる。感染の恐怖は片時も消えない。

「私たちには子供が2人いる。もうやめて正妻に言われたが、何かに誰かやるんだ。希望の光をこもす役割をしたい」と説得した。

感染者からの女兒誕生はまさにその希望の光だった。翌日の感染検査で、母親は陽性だったが、娘は陰性で分かった。

母親は娘を「プリンセス」と名付けた。「大きくなって自分の生まれた日の話をみんな聞かせてほしい。それを考えるようになった」とブラウン。「エボラは治療」という彼の言葉とおり、母親は回復し、9月半には娘と退院した。看護師らは女兒を「プリン」と愛称で呼び、拍手と笑顔で見送った。

(敬称略、共同通信 舟越美夏)

「医療従事者の待遇への支援があればより良く闘える」とブラウンも言う。政府が「治療現場に復帰した者には千ドルの一時金を出す」と表明したとの報道もあったが、政府への不信任感から誰も真に受けていない。

国連は18日「国連エボラ緊急対応支援団」(UNMEER)の設立を決定。日本政府も医療チーム派遣を検討中だ。

リベリアのエボラ出血熱治療現場では、防護具や医療器具の不足がなお深刻だ。混乱の中、命懸けの現場にとどまる医療従事者の給料さえ遅配が続く。感染した際の補償も未整備だ。最前線の医療従事者は事実上のボランティアに近く、職業的使命感に訴えるだけでは人員確保に無理がある。

次回(10月5日)掲載し先ず



リベリアのエボラ出血熱治療現場では、防護具や医療器具の不足がなお深刻だ。混乱の中、命懸けの現場にとどまる医療従事者の給料さえ遅配が続く。感染した際の補償も未整備だ。最前線の医療従事者は事実上のボランティアに近く、職業的使命感に訴えるだけでは人員確保に無理がある。